

“フェイク・ニュース” 政治と ヘブライ語聖書¹

ジョナサン・マゴネット
日原 広志 (訳)

私たちは、膨大な量の情報、諸々の見解、娯楽、ニュース、広告、そして途方もないナンセンスによって圧倒されている社会に住み、それらでもって日々爆撃されています。私たちはソーシャル・メディアによって、私たちの注目事に関する諸々の要求に応答するよう絶え間ない圧力をかけられています。私たちは自らの私的また公的生活における優先度を競い合うところの、際限なく、いつも緊急な「ニュース速報」の支配下にあります。私たちは私たち自身のコンピュータ利用によって集積された、私たちに利害のありそうな個人プロフィールに対して反応を示すよう慎重に標的にされています。そうして、私たちは、入念に私たちのために選び出され、終わりなき反復によって補強された、願望または偏見を私たち自身にフィードバックさせることによって、私たち自身に滋養を与え、あるいは暴食します。大量のインプットはそのようなものであるため、私たちは、私たちに与えられている情報の真贋を見極めるための機会を殆ど持っておらず、またはおそらく〔見極めたいという〕欲求さえ〔殆ど持っていない程です〕²。私たちが受け取っているものの一部は、〔“これこそ” 真実でバイアスのかかかっていない情報である〔”〕と主張される何かを提供し

1 〔訳注〕これは2017年5月22日、西南学院大学大学博物館2階講堂で行われた神学部ロングチャペルでの公開講演である。原題は、“Fake News”, Politics and the Hebrew Bible”。

2 訳注：〔 〕は訳者の挿入を示す。

つつ、近年の主要な政治的出来事に影響を与えてしまっていてさえいるところの、隠された諸々のアジェンダへとといよいよ結びつけられます。科学技術的専門性—それで以て情報が今日私たちに重くのしかかることになったところの—によって促進された冷笑主義は、何が真で何が偽か、何が偽りない報道で何が計画的な偏向のかかった巧みな操作なのかを識別する私たちの能力を徐々に弱めます。私たちは「フェイク・ニュース」と「オルタナティブ・ファクト」の時代に生きています。

それにもかかわらず、伝送の量と速度は漸進的に増してきているとはいえ、私たちに与えられた資料を査定するという問題は人間文明と同じ位古いものです。政治家達の、あるいは権力を持った人物達の、あのレトリックに関する大衆の懐疑主義については新しいものは何もありません。驚く事ではありませんが、そうした情報の巧妙な操作についての〔諸例〕、及びそれへの抵抗についての諸例は、かのヘブライ語聖書の記述の中に見出されることになっています。権力者のレトリックの、そして彼らが支持する〔原則、宗教的価値、イデオロギー等の〕諸価値の、背後にある真実を探求することに最も明確に従事している人々は、聖書の預言者達です。しかし加えて、聖書の物語の多くも、今日の私たちにとってなお難題であり続けている政治的諸問題を反映しています。多様な同時代的関心を、聖書本文というレンズを通して、検証してみましょう。

「権力者に真実を語ること」

高度に発達した社会はどこも理念あるいは情報を世間一般の隅々にまで伝達する諸手段を持つ必要があります。ヘブライ語聖書はそれ〔メディア〕をコントロールし得る権力を持った人々による「メディア」の利用と悪用〔を映し出すだけでなく〕、だからこそ他の人々にとっては彼ら〔権力者〕のメッセージを精査し、また論戦する必要があることを〔も〕両方とも映し出しています。明らかに、彼らの文書が私たちに遺されているところの、聖書の預言者達

は、特定の状況における神の意志が何であるかについての彼らの個人的体験と知覚から引き出された、彼ら自身の政治的見解を持っていました。しばしば彼らの見解は、当時の複雑に変化する国際政治において、王や顧問達の公式方針と矛盾するものでした。〔また〕公開の演説という性質の故に、彼らは彼らのメッセージを公共の広場へと持って来なければなりませんでしたし、その職務のために彼ら自身の修辭的技術を用いなければなりませんでした。

〔為政者達の選択は〕危険な政治的冒険と同盟〔に他ならない〕と彼〔預言者〕が看破したものに対する批判において最も天賦の才を窺わせる人物の一人は、預言者イザヤです。彼は〔南王〕国の政治的中心であるエルサレムに住み、そして彼の文書は彼自身の名を冠した書の第一部に見出されます³。彼の得意とする武器は風刺でした。以下の諸例において、彼は、あり得べき侵略 — 恐らくはアッシリア帝国を念頭に置きつつ — に抗する防衛として新たな政治的同盟を正当化する意図を明確に持ったところの公式な政府のニュースリリースをパロディ化しています。イザヤはその声明の言い回しを取り、彼のパロディにおけるキーワードを代わりに用います。彼の〔当時の〕聴衆であれば、彼が「死」と「シェオール（死者の世界）」の語をいくつかの想定できるよく知られた同盟相手の名の代わりに用い、そして「嘘」と「偽り」の語を、政権によって約束された保証の代わりに用いた時、彼が置き換えたその〔元の〕言葉を直ちに認識したと思われる。

お前たちは言った。「我々は“死”と契約を結び、“陰府”と協定している。洪水がみなぎり溢れても、我々には及ばない。我々は“欺き”を避け所とし、“偽り”を隠れがとする。」（イザヤ書28章15節）⁴

3 訳注：イザヤ書（全66章）のうち預言者イザヤに帰し得る預言は1-39章（第一イザヤと呼ばれる部分）に含まれていることを指す。

4 訳注：4つの単語の引用符による強調は講演者による。なお以下日本語聖書の引用は、特に断らないかぎり『聖書 新共同訳』からのものである。

言葉遊びの巨匠として、この例における彼〔イザヤ〕の皮肉は、彼がここで名宛人としている特定の人々、つまり国家の指導者達にまで拡張されています。悲しい事に、彼の達成したその効果は、翻訳では完全に失われています。彼は彼らを以下のように呼んでいます。

嘲る者らよ、主の言葉を聞け／エルサレムでこの民を治める者らよ。(イザヤ書28章14節)

おそらく注解者達は余りにも翻訳に依存しているので、この彼らについての「嘲る者ら」なる予期せぬイメージから何らかの意味を引き出そうと試みます。そのヘブライ語のフレーズは「アンシェ ラツォーン」「嘲りの男達」です。しかし彼の聞き手達であればこのフレーズの背後に、「アンシェ ツィォーン」「あなたがた、シオンの男達」にかけた〔言葉〕遊びを聞き取ったことでしょう。明白に、彼の見解において、彼らは民の宗教的中心たるシオンと同列に言及されるに値しないのです。

独裁体制の自己防衛の工夫の一つは、主要な権力の座にその忠誠心が一少なくとも理論的には一保証され得る家族を任命するという縁故採用です。イザヤは余りにも悪い〔時代状況となった〕ので、〔平時であれば〕自動的にある主要な地位に任命されることを期待する筈の人物さえもむしろそれを避けるような時代が迫っていると暗示することによってこの慣習に挑戦します。イザヤは何か殆ど一編の寸劇ショー (cabaret skit) であり得るようなものを、〔上述28章とは〕別の輝かしい言葉遊びを含みつつ、創造します。

人は父の家で兄弟に取りすがって言う。「お前にはまだ上着がある。我らの指導者になり／この破滅の始末をしてくれ」と。だがその日には、彼も声をあげる。「わたしにも手当てはできない。家にはパンもなければ上着もない。わたしを民の指導者にしてもだめだ」と。エルサレムはよろめき、ユダは倒れた。彼らは舌と行いをもって主に敵対し／その栄光のまなざしに逆らった。(イザヤ書3章6-8節)

イザヤの攻撃を理解するために、私たちは「そしてこの破滅をあなたの手の下にあらしめよ」〔新共同訳「この破滅の始末をしてくれ」〕という箇所の一つの〔ヘブライ語〕単語に注目する必要があります。「破滅」にあたる語は動詞「カシャル」「よろめく」から派生した稀少語〔名詞〕「マフシェラー」です。その同じ動詞はその次文「なぜならエルサレムは破滅したから」— 文字通りには「よろめいてしまった」— の中に現れます。しかし、イザヤが予見していたところの無秩序を表すのに良い術語であるということに加えて、「統治権」を意味する単語「メムシャラー」〔ממשלה〕をあてがうためには、マフシェラー〔מכשלה〕の子音文字1つ〔‘ו’と‘מ’〕の変化をただ要求するだけです。〔逆も同様で〕それだけで元来のフレーズ「この統治権をあなたの手の下にあらしめよ」が〔パロディ〕「この破滅をあなたの手の下にあらしめよ」になるわけです。しかし、イザヤ書の別の箇所が明確にするように、その〔パロディの〕底にはより深く切り込んだ攻撃が存しています。22章のある章句は、一人の王室高級官吏のその地位からの罷免と、エルヤキムという名の他の人物による交代について語っています。以下の章句は誰かが彼の公的地位を取り上げる時に使われる儀式用言語であるように思われます。

その日には、わたしは、わが僕、ヒルキヤの子エルヤキムを呼び、彼にお前の衣を着せ、お前の飾り帯を締めさせ、お前に与えられていた支配権を彼の手に渡す。彼はエルサレムの住民とユダの家の父となる。(イザヤ書 22章20-21節)

ある公職の特別服についての言語と、そして統治権を誰かの手に渡す〔モチーフ〕とが両方共イザヤのパロディにおいて反響させられています。彼の聞き手達は、彼がこの権力を委譲する際の公式儀礼を、社会崩壊と無秩序という将来の時代に〔合わせて〕、皮肉をもって作り変えていることを認識したことでしょう。

イザヤは自分の望む時に王に直接会える権利を有する程、上流の社会階層に属していました。彼の直接の聴衆は恐らく彼と階級や関心を同じくする権力中枢の側近達の小集団でした。彼は自分の周囲で見た墮落について熟知しており、異議申し立てをします。しかし用心深く — 当時の聴衆であれば誰の事を指しているか認識できたでしょうが — ヒントを通してのみ語ったのです。例えば、彼は〔本来の〕所有者から土地を取り上げることによって広大な地所を築いた当時の開発業者達を攻撃しています。

災いだ、家に家を連れ、畑に畑を加える者は。お前たちは余地を残さぬまでに／この地を独り占めにしている。(イザヤ書5章8節)

彼は以下の章句において預言者達を批判しているように思えます。これに対する手掛かりは彼がここで言及している楽器のリストです。それらは預言者達によって自らをある種の恍惚状態へと到達させるのを助ける目的で使用されてきました(サムエル記上10:5)。イザヤは〔先ず〕仕事に従事するために朝早く起きるといふ彼らの公的な日課に言及します。しかしそれから彼は次の展開によって私たちの予想を転覆させるのです。

災いだ。

朝には早くから起床する者 — 但し濃い酒を追いかけるためにだけ！
夜には遅くまで寝ずにいる者 — 但し酒に身を焼かれるためにだけ！
酒宴には琴と豎琴、太鼓と笛をそろえている。だが、主の働きに目を留めず／御手の業を見ようともしない。(イザヤ書5章11-12節)⁵

彼は軍の誇示された自尊心とヒロイズムにさほど感銘を受けていません。

5 〔訳注〕以下に続くイザヤ書5章11-12, 22, 21節の3箇所はいずれも講演者による英訳に基づく。

災いだ。

力強き戦士たる者 — 但し酒を飲むことにかけてだけ！

そして豪傑たる者 — 但し強い酒を調合することにかけてだけ！

(イザヤ書5章22節)

彼は王の顧問達や参議達に殆ど尊敬を払っていません。

災いだ。

知者たる者 — 但し自分自身の目においてだけ！

そして賢き者 — 但し自分自身の見解においてだけ！

(イザヤ書5章21節)

しかしイザヤはまた「フェイク・ニュース」と「オルタナティブ・ファクト」のリアリティと危険について知っていました。

災いだ，悪を善と言い，善を悪と言う者は。彼らは闇を光とし，光を闇とし／甘いものを甘いとし，甘いものを苦いとする。(イザヤ書5章20節)

メッセージを受け入れさせること

もし上述の例がおそらくイザヤのサークルの中のある小集団の人々に共有されていた〔限定された性質のものだ〕とすれば，聖書は人々の注意を捉えるために広範にばらまかれたスローガンの例を〔も〕記録しています。ある事例において，神は預言者ハバククに，良いマーケティング戦略についての一つのアドバイスを与えました。

主はわたしに答えて，言われた。「幻を書き記せ。走りながらでも読めるように／板の上にはっきりと記せ。(ハバクク書2章2節)

現代広告の重要な要素である、あるメッセージを売り込むために反復の多い言葉を伴った流行歌を使用することさえも、ヘブライ語聖書の中に見出されます。あいにく預言者エゼキエルの事例においては、彼のテクニクは期待に反した結果になったように思われます。

人の子よ、あなたの同胞は城壁の傍らや家の戸口に立ってあなたのことを語り、互いに語り合っている。『さあ、行って、どんな言葉が主から出なのか、聞こうではないか』と。そして、彼らはあなたのもとに来る。民は来て、あなたの前に座り、あなたの言葉を聞きはするが、それを行いはしない。彼らは口では好意を示すが、心は利益に向かっている。見よ、あなたは彼らにとって、楽器にあわせて美しい声でうたうみだらな歌の歌手のようだ。彼らはあなたの語ることを聞くが、それを行いはしない。しかし、そのことが起こるとき — 見よ、それは近づいている — 彼らは自分たちの中に預言者がいたことを知るようになる。」(エゼキエル書33章30-33節)

それでもやはり、音楽的伴奏付きのそうした大衆向けコマーシャルは時折政治的重要性を持ちました。もしセレブ〔有名人〕信仰が現代生活の抗し難い特徴であるように思われるのなら、これもまた聖書の中に対応するものが存するに違いありません。ダビデ王のキャリアの初期から一例をご覧下さい。

皆が戻り、あのペリシテ人を討ったダビデも帰って来ると、イスラエルのあらゆる町から女たちが出て来て、太鼓を打ち、喜びの声をあげ、三絃琴を奏で、歌い踊りながらサウル王を迎えた。女たちは樂を奏し、歌い交わした。「サウルは千を討ち／ダビデは万を討った。」(サムエル記上18:6-7)

私たちは誰がこの歌を作曲し、いかにしてそれが「イスラエルのあらゆる町」へと広められたのかと不思議に思います。それは単に喜びや賞賛の一つの自発的流出だったのでしょうか、あるいは行間を読みつつ、ダビデの利益とな

るように、または〔ダビデ自身〕による、権力を掌握するために計画されたキャンペーンの第一歩だったのでしょうか？ 確かなのは、サウルはそれを以下のよう理解したことです。

サウルはこれを聞いて激怒し、悔しがって言った。「ダビデには万、わたしには千。あとは、王位を与えるだけか。」(サムエル記上18章8節)

一般大衆の姿勢を決定するための政治的スローガンの力はそれほどのものであるので、エレミヤのような預言者は公然とそれら〔スローガン〕を批判するよう〔神に〕強いられた自分自身を発見したものです。彼はバビロニア帝国によってまもなくもたらされる破滅を深く認識していました。彼は彼の同時代人の自己満足と、神殿がそこに存在することを根拠にしたエルサレムの難攻不落性についての彼らのポピュリスト的スローガンを非難しました。

主の神殿、主の神殿、主の神殿という、むなしい言葉に依り頼んではならない。(エレミヤ書7章4節)

同時代の祭司達と預言者達の墮落についての彼の批判の中で、彼は彼らが来るべき危険を民に警告しそこなっていることを攻撃しました。

彼らは、わが民の破滅を手軽に治療して／平和がないのに、『平和、平和』と言う。(エレミヤ書6章14節)

政治の舞台に踏み入れば、私たちはいくつかのなじみのある実践を見出すことができます。それらの一つは、自らの選挙公約に恥じない行動を在任中にとることに失敗したとの理由で現職を中傷する、選挙期間中のネガティブ・キャンペーンです。モーセさえもそうした政治的攻撃から免かれませんでした。コラハによって巧みに工作された反乱の渦中に、ルベン族の2人のリーダーがモーセに挑戦しました。

あなたは我々を乳と蜜の流れる土地から導き上って、この荒れ野で死なせるだけでは不足なのか。我々の上に君臨したいのか。(民数記16章13節)

エジプトがイスラエル人奴隷達にとってどのような所であったにせよ、そこは「乳と蜜の流れる土地」ではありませんでした。それどころかこれはモーセによって彼らに提供された神の約束であり、民を自分に従うよう奨励するための彼の政治的マニフェストだったのです。ここではそれ〔マニフェスト〕は、民に対する政治的リーダーシップ — 彼ら〔敵対者達〕はそれを彼〔モーセ〕に奪われたと感じています — を彼からとり戻したいと思っている彼の敵対者達によって、大変巧みに廃棄されてしまいました。

政治権力の様々な誘惑

二つの物語が、住民達の恐れと偏見を巧みに操作することを通して〔なされる〕権力者による権力の濫用の潜在的危険について私たちに警告しています。一つ目はファラオがその臣民に対して、彼らの只中に住んでいたイスラエル人達について〔語った〕メッセージです。

そのころ、ヨセフのことを知らない新しい王が出てエジプトを支配し、国民に警告した。「イスラエル人という民は、今や、我々にとってあまりに数多く、強力になりすぎた。抜かりなく取り扱い、これ以上の増加を食い止めよう。一度戦争が起これば、敵側に付いて我々と戦い、この国を取るかもしれない。」(出エジプト記1章8-10節)

この本文において、「知る」にあたる動詞は、ファラオは一度もヨセフに会った事がないという文字通りの意味にとれます。しかしそれどころかそれ〔動詞〕は、ヨセフがその国において演じたところの重要な役割を「承認する」ことをも意味します。「新しい王が立った〔新共同訳(出で)〕」という普通ではない導入句は、彼が通常の王位継承者ではなく、何らかの王朝の革命的交代の結果

〔王位を篡奪したこと〕を暗示します。それもまたヨセフを「知る」ことへの拒絶に適合するでしょう。そうした予期せぬ政権交代に特徴的なことの一つは新しいリーダーシップの不安定さであり、そして大衆の心に自らをしっかりと打ち立てる必要があります。ファラオから今日に至るまでの一般的方法は、人口の大多数を占める人々の感情と偏見に適合する何らかの仕方、「対処する」ことが必要であるような現実または想像上の一つの敵を特定することです。ここでファラオは初めて、「イスラエル人」（文字通りには、その章の始め〔出エジプト記1章1節〕に描写されているように「イスラエル／ヤコブの息子達」ですが）を、一つの「民」として言及し、こうして彼らにより大いなる一体感と、潜在的脅威を与えています。おなじみの主張が後に続きます。すなわち、彼らは我らよりも「あまりに数多く、強力」であるという、ありそうもない、しかし敵国人というステレオタイプな思考には快適に適合するところの査定です。後に続くぞっとするような出来事の中で、ファラオはヨセフによって確立されたものとしての彼らの独立した地位を、肉体労働者達の〔地位〕へと降格させることに、それから野外で最も苛酷な労働を彼らに与えることに、こうして彼らの人間性をさらにエジプト人達の目に貶めることに着手します。これが人口増加の流れをくい止めないと見るや、彼はそれを実行するために助産婦達を使いつつ、ジェノサイドの秘密の案を新たに立てます。彼女達は誕生時に男児を殺害することを拒否します。しかし、ファラオは、もう自らの権力掌握とイスラエル人の零落に十分な安定を感じていたので、今や公然と自分の民に、川の中へと全ての男児を投げ込むよう命令できる程になっています⁶。

6 権威主義体制は少なくともその初期段階においては自らの悪行を合法性の名の下に隠そうとするのが常である。（後注7のアビメレクのケースを参照）一つのやり方はその体制に不興を買っている特定の集団に加えられる攻撃は当局に罰せられることはないことと知らしめることである。その体制は加害者たちの悪い振る舞いに表向き遺憾の意を表明するが、いかなる責任も否定する。やがて、そうした暴力が大衆に受け容れられるようになると、その体制はそれを命じることも可能になるのである。ラビたちはファラオの命令〔出エジプト記1：22〕は、おそらくはやヘブライ人の男児〔1：16〕に限定されてはならず、全ての男児を殺すことであつたと言及している。他の人々に対するそうした権力の濫用は容易に自分達自身へ跳ね返ってくるものである。

より偽装され、しかし潜在的に、まさに甚だしく非道なものは、ペルシア時代に時代設定されたエステル記における、アハシュエロス王の最高顧問ハマンの活動です。ユダヤ人に対する復讐を履行するための直接的な力を彼は持っていなかったため、彼は王に向かってその仕事をするよう説得する方法を見出さねばなりません。彼のほめかす仕方は〔前記の〕ファラオのそれに倣うものですが、より抜け目なく、そして今日のどれほど多くの政治的状況において逐語的に置き換え可能であることでしょう。

ハマンはクセルクセス王に言った。「お国のどの州にも、一つの独特な民族がおります。諸民族の間に分散して住み、彼らはどの民族のものとも異なる独自の法律を有し、王の法律には従いません。そのままにしておくわけにはまいりません。もし御意にかないますなら、彼らの根絶を旨とする勅書を作りましょう。わたしは銀貨一万キカルを官吏たちに支払い、国庫に納めるようにいたします。」(エステル記3章8-9節)

ハマンの主張は、王が自ら公認した顧問によって適切かつ簡潔な報告を受けたという気持ちを満足させるに十分な、真実を土台に立てられています。ユダヤ人は実際、帝国じゅうに散らばっており、独自の法を確かに持っています。嘘をついている部分は、彼らは王の法を遵守しないというハマンの査定です。もう既にバビロン捕囚民へのエレミヤの手紙の頃から、民は彼らが捕囚される先でその社会の法を守るよう教示されていたのです。ハマンは自らの告発によくありがちな「わいろ」を付け加えます。〔それは、〕もし彼〔王〕がこの行為に同意するなら、— おそらくその民族が殺された場合に、税金における王の損失を補填するために！— 王の国庫へと巨額の現金の投入を〔約束するものでした〕。その先行する〔エステル記1〕章は王がいつも彼のまわりに7人の大臣の集団を持っていることを指示していました。しかし、この〔3〕章は王宮における大臣達全ての上に突然ハマンを任命〔する記事〕で始まります。何故これは突然に変えられたのでしょうか？前章末〔エステル記2章21-23節〕では、数人の家臣達による王の殺害計画が露見していました。多分ハマンの昇

格は信頼出来る人物が一人だけで宮廷の安全に責任をもつということを確実にするための一つの試みだったのでしょう。確かにハマンの、王国全体に散在する、ある謎めいた、潜在的に危険な民としてのユダヤ人への告発は今日「国土安全保障」省からのブリーフィングの中に反響を持っています！結果的に、ハマンの計画は王妃エステル — 彼女もまた、まさにそうした緊急事態のために王宮に潜り込まされていた「休眠諜報員 (sleeper)」という、スパイ小説で人気の登場人物に相当しますが — によって挫かれます。

抜けめない政治的交渉を経由して権力に上りつめた人物についての第三のエピソードが存在しますが、すなわち以前の講演でその興隆と衰亡について私が語ったアビメレクです⁷。彼は大士師エルバアル — またの名をギデオンの息子でした。ギデオンは数多くの妻達との間に70人の息子をもうけていましたが、アビメレクの母はギデオンの側女で、シケムの町出身でした。アビメレクは親族たちに頼んでシケムの市民達へ彼の言い分を述べさせたのですが、その内容は社会全体を〔ただ〕一人の支配者が治めた方がよいから自分を選ぶようにというものでした。彼の主張は二つの要素を持っていました。すなわちその第一は政治的理論についての筋が通っているように思われる問いです。「あなたたちにとって、エルバアルの息子七十人全部に治められるのと、一人の息子（もちろん彼自身を意味しつつ）に治められるのと、どちらが得か？」責任ある地位に70人もの兄弟がひしめけば、政治腐敗の可能性は大きくなると思われまので、それゆえに二者択一的な選択として一人の支配者の方を支持するための十分な主張がなされたことでしょう。しかしアビメレクの決め手は — それは政治システムについての理論的検討の一切が脇へ押しのけられてしまう時にいつも効力を発揮するものですが — 彼の締めくくりの言葉において

7 Jonathan Magonet, 'Avimelech: The Rise and Fall of a Biblical Dictator' 日原広志訳「アビメレク — 聖書に登場する一人の独裁者の興隆と衰亡 —」『西南学院大学神学論集』第73巻第1号（2016年3月），101-116頁。アビメレクは、“適正な”“見せしめとしての裁判”と有罪判決の後での公式な死刑執行であることを暗示しつつ、「一つの石の上で」70人の兄弟を殺す手筈を整えている。〔士師記9章5節〕

示されます。「ただしわたしが、あなたたちの骨であり肉だということを心に留めよ！」彼の家族は彼の利益になるように語り、そして彼らが首長達に「これは我々の身内だ！」と思ひ出させた時（士師記9章3-4節）、彼らは成功したのです。そうして、啓発された利己心は勝利を得ました。アビメレクの支配は彼がエルバアルの息子達、〔自分の〕70人の兄弟達を — 恐らく彼の選挙公約の一つの成就として — 処刑した時に暴力を以て始まり、そして彼が殺された時に暴力のうちに終わりました。

ヘブライ語聖書はこれら3つの例を、物語それ自身のために語らせつつ、道徳的意見を述べることなく提供しています。しかし3例全てが、いかに権力は個人的目的のために濫用され得るのかについての警告として利用可能であり、そして〔3例全てが〕今日私たち自身の社会に影響を及ぼしている同時代の諸々のヴァリエーションに対して私たちが鋭敏にさせることでしょう。

情報操作とウィキリークス

一般大衆のところまで届けられるメッセージをコントロールすることと同様に、諸体制は彼らの権威を土台から浸食するかも知れないいかなる情報をも抑圧しようと試みます。一つの好例はアッシリア軍によるエルサレム包囲の中に見出されることになっています。彼ら〔アッシリア軍〕のスポークスマン、ラブシャケは明らかにプロパガンダに精通した人ですが、全住民の信頼を損なわせるよう企図された一つの賢いスピーチで以て、城壁の上に立つ都の指導者達に挑みます。彼ら〔指導者達〕の即座の反応は、城壁の上にいる民が理解できるヘブライ語を話すのを止め、代わりに〔民には理解できない〕当時の外交上の国際的言語であったアラム語を使うようにと彼に告げることです。それに対してラブシャケは彼らの当惑を明らかに楽しみつつ以下のように返答します。

だがラブ・シャケは彼らに言った。「わが主君がこれらのことを告げるためにわたしを遣わしたのは、お前の主君やお前のためだけだともいうのか。城壁の上に座っている者たちのためにも遣わしたのではないか。彼らもお前たちと共に自分の糞尿を飲み食いするようになるのだから。」(列王記下18章27節)

彼はそれから彼のプロパガンダのメッセージを大声でそして完璧なヘブライ語で更に続けます！

どの政府も自分たちの秘密を守ろうと努めます。しかしその秘密が重大であればある程、誰かがそれを一般大衆へとリークしようとする見込みもより大きくなるものです。これは一人の内部告発者によってなされることもある一方で、時々政府が、あるいはその中の一派閥が、自らのアジェンダが支持されるということを確実にする目的で、そうしたリークを用いることもあります。モーセは、約束の地を偵察するために遣わされた斥候達の任務遂行の直後に、まさにそうした事態に直面しなければなりませんでした。斥候達が帰還した時、彼らはモーセと関係者だけの報告会 (a private briefing) を持ちました。彼らの全員がその土地は富んで肥沃であることに同意しました。しかし彼らのうちの10人は要塞化した都市と住人達の強力さの故にそれを征服することは不可能であろうと主張しました。わずかに斥候達の2人、カレブとヨシユアだけが同意しませんでした。この事例ではカレブがスポークスマンとして行動し、純粋な軍事用語で主張しました。

カレブは民を静め、モーセに向かって進言した。「断然上って行くべきです。そこを占領しましょう。必ず勝てます。」しかし、彼と一緒に行った者たちは反対し、「いや、あの民に向かって上って行くのは不可能だ。彼らは我々よりも強い」と言い、(民数記13章30-31節)

次に起きることを理解するために〔31節と32節の間に省略されている物語を補うならば〕、多分モーセは最高司令官として、10対2でその地に入る試みが反対されているにもかかわらず、その状況についてのカレブの査定を受け容れ、そして民に征服へと参与するよう決定したのでしょうか。もしあなたがたがリーダーに同意しないなら、あなたがたはそうした状況の中で何をするでしょうか？あなたがたはその土地についてのあなたがた自身のネガティブな報告を出来るだけ多くの人々にリークし、その諸々の危険を誇張することになります。

イスラエルの人々の間に、偵察して来た土地について悪い情報を流した。「我々が偵察して来た土地は、そこに住み着こうとする者を食い尽くすような土地だ。我々が見た民は皆、巨人だった。そこで我々が見たのは、ネフィリムなのだ。アナク人はネフィリムの出なのだ。我々は、自分がいながらのように小さく見えたし、彼らの目にもそう見えたにちがいない。」(民数記13：32-33)

明らかにそのリークは効を奏します、なぜなら宿営全体は様々な集団が様々な方法で反応し大混乱になりました。「コルハエーダー」⁸—全体理事会 (the entire governing body)〔を指す術語〕—は論争し、互いに叫びました。民は一晩中泣き通しました。「イスラエルの子ら全員」—おそらくある種の国民会議 (national assembly)〔を指す術語〕—は、公式にモーセとアロンに対して不服申し立てをしました。そして全体理事会は以下のように述べて決議しました。「エジプトの国で死ぬか、この荒れ野で死ぬ方がよほどまじだった。…エジプトに引き返した方がましだ！」

モーセのリーダーシップに対するこの異議申し立てに端を発した不和は、暫くするとコラハによって主導された大反乱に至りました。民の間にある亀裂はバイアスのかかった選択的で否定的な報告のリークによって暴露されてしまうのです。

8 訳注：新共同訳では「共同体全体」(民数記14章1節)。

誰の言葉をあなたがたは信じるか？

政治家というものは自らの地盤を創出しなければなりません。そのプロセスの一部は、潜在的支持者達を知り — 最終的にその政治家が支持票を得ることができるかどうかはともかく — 彼らを親友のように扱いつつ、彼らが最も求めるものを彼らに提供し、親しくなろうとすることです。これに最も成功した一人はダビデの息子アブサロムです。彼は明白に王位への野心を持っており、最終的には父に反旗を翻すのです。

その後、アブサロムは戦車と馬、ならびに五十人の護衛兵を自分のために整えた。アブサロムは朝早く起き、城門への道の傍らに立った。争いがあり、王に裁定を求めに来る者をだれかれなく呼び止めて、その出身地を尋ね、「僕はイスラエル諸部族の一つに属しています」と答えると、アブサロムはその人に向かってこう言うことにしていた。「いいか。お前の訴えは正しいし、弁護できる。だがあの王の下では聞いてくれる者はいない。」アブサロムは、こうも言った。「わたしがこの地の裁き人であれば、争い事や申し立てのある者を皆、正当に裁いてやれるのに。」また、彼に近づいて礼をする者があれば、手を差し伸べて彼を抱き、口づけした。アブサロムは、王に裁定を求めてやって来るイスラエル人すべてにこのようにふるまい、イスラエルの人々の心を盗み取った。(サムエル記下15章1-6節)

私たちが彼ら〔政治家〕は自分の言葉を守りそうにないと知っている時でさえ、そして彼らが私たちが失望させた後でさえ、どれほど私たちが政治家の約束を信じてしまうものなのかは驚くべき事です。しかしヘブライ語聖書はまた私たちに、神の名において語っていると主張する預言者達の言葉も、大変注意深く熟考するよう警告しています。聖書の世界において、彼らは神の言葉に基づいて — そう彼らは主張しました — 正しい政策を王へ助言する者として中心的役割を演じてきました。〔以下の〕二つの聖書の物語は真の預言と偽りの預言を識別することの困難さを示しています。

北イスラエル王国と南ユダ王国の軍事協力という希少例において、二人の王はラモト・ギレアドの町を奪い返すために共に戦いに出ることに同意します。彼らは北王国所属の400人の官選の預言者達にその町への攻撃は成功するかどうか尋ねます。するとその預言者達は満場一致で「攻め上ってください。主は、王の手にこれをお渡しになりますから！」と返答しました。何らかの理由で、ユダの王ヨシャファトはこの答えについて懐疑的でしたので、彼が〔神託を〕尋ねることの出来る他の預言者はいないかどうか問います。明らかに、何かしら当惑しつつ、アハブ王は返答しました。

イスラエルの王はヨシャファトに答えた。「もう一人、主の御旨を尋ねることのできる者がいます。しかし、彼はわたしに幸運を預言することがなく、災いばかり預言するので、わたしは彼を憎んでいます。イムラの子ミカヤという者です。」(列王記上22章8節 a)

ヨシャファト王はミカヤから聞く事に固執しました。彼〔ミカヤ〕は他の預言者達の例の見解について〔使いの者から〕簡潔に報告されていたので、王に与えられているその同じ成功の約束をただ繰り返しました。彼〔アハブ〕にしては立派なことに、アハブ王は〔神の真実な言葉を知らせるよう〕言いました。

そこで王が彼に、「何度誓わせたら、お前は主の名によって真実だけをわたしに告げるようになるのか」と言うと、彼は答えた。「イスラエル人が皆、羊飼いのいない羊のように山々に散っているのをわたしは見ました。主は、『彼らには主人がいない。彼らをそれぞれ自分の家に無事に帰らせよ』と言われました。」(列王記上22章16-17節)

その話題の重大性にも関わらず、王のこのフラストレーションには喜劇的な底流が存在します。ミカヤはそれから彼自身の幻の中で、神は〔アハブ〕王を害するために、嘘を言う霊を預言者達の口へ遣わしていたということを明らかにしました。この瞬間、ケナアナの子ゼデキア — 預言者達のリーダーと思わ

れます — がミカヤの顔に平手打ちを与えます！結局は、ミカヤは正しいことが証明されますが、しかし即時の状況において、400人の職業預言者達の全会一致な見解に直面して、我々が最も信じてしまいそうな〔預言〕者はどちらでしょうか？ある一つのラビ的フレーズは、あの400人の預言者は個別に話すべきだったということを含意しつつ、「二人の預言者が同じスタイルで預言することはない」と提案しています。あるいは、私がかつてエルサレムのある正統派のラビに言われたように、「もし一人の預言者が何事かを言うならば、それは真実であるかも知れない。400人の預言者達が全く同一の事を言うとするれば、それは預言ではなく、ヒステリーだ！」ということになります。

しかしエルサレムの民がより大きな難問に直面させられたのは、神殿の中で居並ぶ祭司と全ての民の面前で語った、二人の十分な資格を有する公認の預言者の間で意見が衝突した時でした。これはその重要性において「大統領候補討論会」と大差ない重大な公開討論会でした。その〔二人の〕預言者とはエレミヤと、アズルの子ハナンヤでした。エレミヤ自身の名において記録されたその記事の全体を通じて、両名ともその名が現れる時、「かの預言者」という称号を付されています。それはどのように彼らが自らの聴衆に対して立ち現れていたかを物語ります。しかし、注意深い読み手には、この称号が何度か欠落することが分かるでしょう。彼らのディベートは王国全体の運命に影響を及ぼす重要なものであります。エレミヤは、彼の諸見解を広く宣伝するもう一つの手段として、バビロンが民の上に負わせることになるであろう軛を象徴するために、彼の両肩に軛を背負っています。ハナンヤが口火を切ります。

「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしはバビロンの王の軛を打ち砕く。二年のうちに、わたしはバビロンの王ネブカドネツアルがこの場所から奪って行った主の神殿の祭具をすべてこの場所に持ち帰らせる。また、バビロンへ連行されたユダの王、ヨヤキムの子エコンヤおよびバビロンへ行ったユダの捕囚の民をすべて、わたしはこの場所へ連れ帰る、

と主は言われる。なぜなら、わたしがバビロンの王の軛を打ち砕くからである。」(エレミヤ書28章2-4節)

エレミヤは返答します。

預言者エレミヤは言った。「アーメン、どうか主がそのとおりにしてくださいるように。どうか主があなたの預言の言葉を実現し、主の神殿の祭具と捕囚の民すべてをバビロンからこの場所に戻してくださるよう。だが、わたしがあなたと民すべての耳に告げるこの言葉をよく聞け。あなたやわたしに先立つ昔の預言者たちは、多くの国、強大な王国に対して、戦争や災害や疫病を預言した。平和を預言する者は、その言葉が成就するとき初めて、まことに主が遣わされた預言者であることが分かる。」(エレミヤ書28章6-9節)

エレミヤは知的な議論を提唱します。しかしハナンヤは民の最も深い願望と希望を表現しています。多分彼はエレミヤに対する何の回答も持っていません。あるいは多分彼は何かもっとドラマチックなものがこのディベートに勝つためには必要であると感じています。

すると預言者ハナンヤは、預言者エレミヤの首から軛をはずして打ち砕いた。そして、ハナンヤは民すべての前で言った。「主はこう言われる。わたしはこのように、二年のうちに、あらゆる国々の首にはめられているバビロンの王ネブカドネツアルの軛を打ち砕く。」そこで、預言者エレミヤは立ち去った。(エレミヤ書28章10-11節)

エレミヤ書を読む者は、この時ハナンヤが自分の内側から語っていながら、しかし“主の言葉を宣言しているところだ”と主張する時、かの称号「預言者」が彼の名から脱落してしまっていることに気づくでしょう。エレミヤは、それさえあれば彼〔ハナンヤ〕に反論できるという神からの言葉を何ももらえな

かったらしく、立ち去ることしかできません。しかしそうすることで彼はなお〔立ち去る場面でも〕かの称号「預言者」を帯びているのです。私たちはバビロニア人によってその後もたらされるユダとエルサレムの破滅について知っていますから、エレミヤが神の真正の言葉を持っていたのであり、そして彼は持って〔神の言葉が臨んで〕いない時には、持っているふりをするのをよしとしなかったのだということを容易に受け容れる事ができます。実際には〔潔いだけではなく〕、エレミヤは神に語りかけてもらう必要が彼にある時に限って、神はしばしば沈黙しているという、聖書の真の預言者によって直面される例の問題によく不平を言っています。しかし、あのディベートの見物人の一人という立場にあなたがた自身を置いてみれば、資格と権威の等しい二人の人物を前にして、どちらの人物をあなたがたただったら信じたでしょうか？ ハナンヤの慰めに満ちたポピュリストの見解、そして彼がエレミヤの軛を打ち砕いてみせた劇的な演出の才能がおそらく勝利したことでしょう。レトリックが神的啓示に勝利し、スタイルとテクニクが真実に〔勝利し〕、そしてあの社会の悲劇的結末を急がせたのです。

結論

私は商業広告について殆ど知識を持ち合わせていませんが、セールスマンだったある友人から学んだ話があります。彼はかつて私に話してくれたのですが、彼が仕事を始めた時、彼の上司は彼に何を為すべきかについていくつかのアドバイスを与えました。「君の仕事は」―と彼〔上司〕は言いました。―「英国の主婦に、彼女が必要とするものを売ることではない。君の仕事は、米国の主婦が欲しがるものを、英国の主婦に売ることだ！」そしてもう一つの教訓はあのスローガン「ソーセージを売るな！シズルを売れ！」〔すなわち〕現実の、しかし面白くもない諸々の事実〔ソーセージの産地、生産者、材料、製法〕の上に焦点をあてることよりも、むしろ人々が魅力的と感じるだろうところの何か〔フライパンのジュージュ―いう音〕を強調することのために置換のテクニクを使え！〔ということです〕。そうであれば、私たちの商業的そして政

治的環境のいたるところに存在するそうした私たちの注意の置換〔の数々〕に、
いかにして私たちは戦っているのでしょうか？

私は私自身のヘブライ語聖書の読み方の上にそれが与えた個人的インパクトの故に、これまで何度となく語ってきたエピソードを以て結論としたいと思います。1968年に、私はエジンバラの国際ユダヤ人青年会議に参加しました。出席者の中には当時独裁主義的な共産主義体制の続いていたチェコスロヴァキアからの数人の学生達がありました。その会議で、私たちは〔彼らと共に〕ヘブライ語聖書を学びました。そして私は、〔チェコスロヴァキアでは〕そうした宗教の研究が共産主義体制によって禁止されていたので、彼らが以前決して聖書を学んだことがないにもかかわらず、いかによく彼らが本文を理解するかということに仰天させられたのです。私は彼らに、これはどうしたことかと尋ねた時、彼らは説明してくれました。「チェコスロヴァキアでは、国家統制下にある新聞を読む時、先ずはあるがままに読む。それから自分自身に尋ねる。もしあれが彼らの書いたものなら、何が実際に起こった事なのか？ また自分自身に尋ねる。もしあれが実際に起こった事であるなら、彼らはそう書くことによって我らにどういう考えを持たせようと試みているのか？ そしてもし彼らが我らにああいう考えを持たせようと試みているのであるなら、何を我らはその代わりに考えるべきなのか？ 我らは新聞の行間を読むことを学ぶ。あたかもそれを理解することの上に我らの命がかかっているかのよう！」

今日のグローバル世界においてあからさまな、または隠された権力闘争について、そして私たちの注意と私たちの支持を奪い取るための専門的な企てについて、私たちはメディアの、そしてヘブライ語聖書それ自身の、行間を読むよう自らを訓練する必要があります。あのチェコスロヴァキアの学生達のように、私たちはあたかも私たちの命はそうすることにかかっているかのよう、行間を読むことを学ぶべきなのです。なぜなら〔すでにそうなっている〕かも知れないのですから！